

明和池遺跡の調査

平成 27 年9月 12 日

公益財団法人大阪府文化財センター

はじめに

公益財団法人大阪府文化財センターでは、国立循環器病研究センターの移転建替に伴って明和池遺跡（摂津市千里丘新町地内）の埋蔵文化財の発掘調査を実施しています。明和池遺跡は千里丘陵の縁辺部に位置し、摂津市千里丘新町、千里丘4丁目、同7丁目、千里丘東5東5丁目、庄屋1丁目に所在します。昭和8年に、現在は埋め立てられた明和池（庄屋1丁目地内）の底から古墳時代の須恵器が発見されたことで知られるようになった、摂津市内では比較的古くから周知されている遺跡です。

過去の調査では縄文時代後期・晩期の土器、弥生時代後期末の集落、古墳時代後期から飛鳥時代の須恵器を大量に含んだ流路、平安時代の集落など多様な遺構と遺物が見つかります。

今回、摂津市生涯学習部生涯学習課の協力を得て現地公開を実施する運びとなりました。

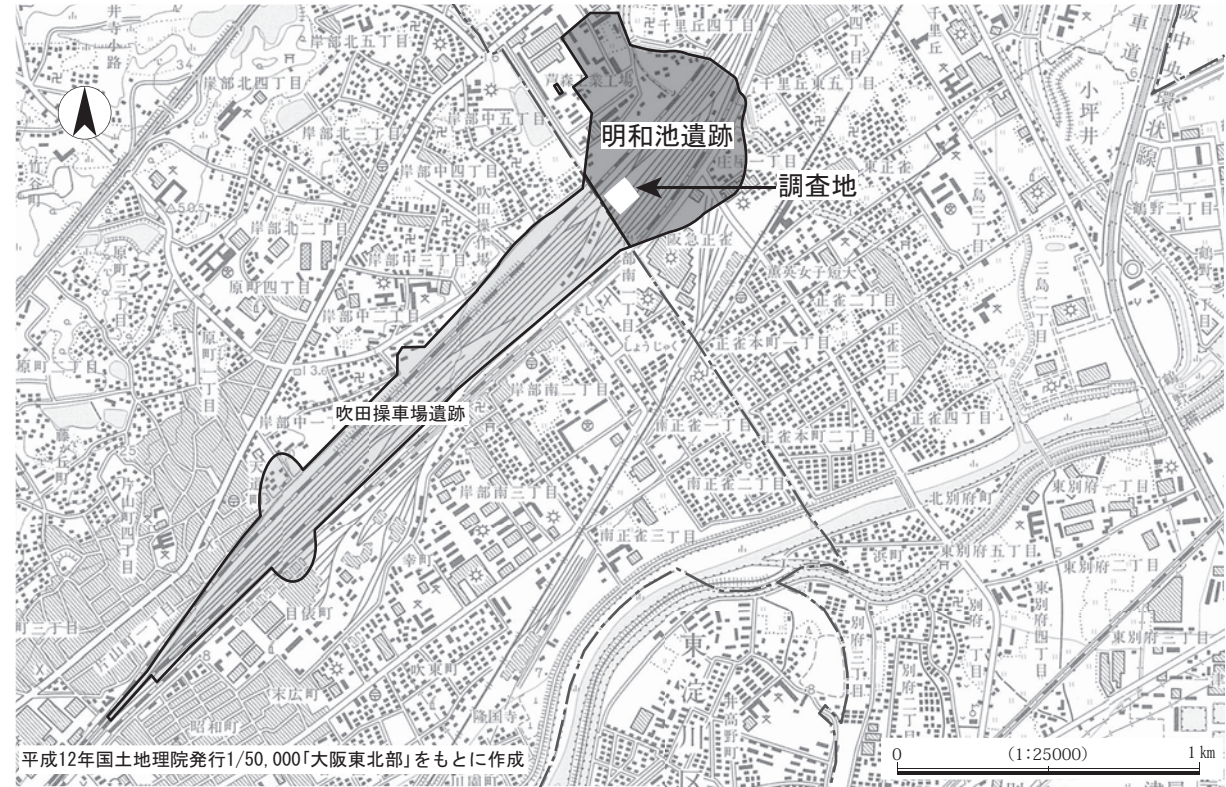
今回の調査成果

今回の調査では主に古墳時代後期（6世紀）から飛鳥時代（7世紀）にかけての溝、土坑、畦畔等の耕作地に関する遺構や、当時の遺物が出土しました。

以前の調査では、正雀川を挟んで西に接する吹田市の吹田操車場遺跡で掘立柱建物で構成される飛鳥時代から平安時代にかけての集落跡が見つっていますが、耕作地跡が検出されたことにより、居住域（集落）と生産域（耕作地）との関係を知る大きな手掛かりとなると思われます。

遺物としては須恵器杯身・杯蓋、甕、土師器甕等が出土している他、古墳時代中期（5世紀）の須恵器把手付コップ形碗が見つっています。

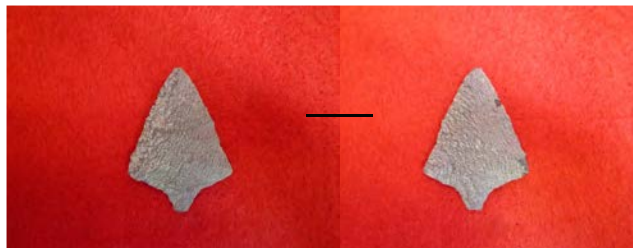
また、過去の調査では調査区域の東側に、弥生時代後期末頃（3世紀）の竪穴建物で構成される集落跡が見つっていますが、今回も弥生時代後期の甕の破片や、人為的に加工された二上山（大阪府南河内郡太子町他）に産出するサヌカイト製の石鏃が出土しています。さらに、中世〔鎌倉時代（13世紀）～室町時代（15世紀）頃〕と思われる耕作による鋤溝痕や耕地の段差も検出されましたが、これらの鋤溝等は北西から南東方向に真直ぐに流れる正雀川の方方向と一致もしくは直交していました。この方向は当地周辺にみられる方形状の土地区画【条里型地割】と一致しています。このことから、遅くとも中世には条里型地割を基にした開発が行われ、正雀川も開発の過程で敷設もしくは改修された可能性が高いと考えられます。



U R都市機構発行パンフレット「吹田操車場跡地まちづくりプロジェクト」掲載地図をもとに作成



D: 4トレンチ全景第4面(土坑・溝等)



サヌカイト製石鏃[弥生時代以前]



須恵器把手付コップ形椀[古墳時代中期]



須恵器杯身・杯蓋[古墳時代後期]



A: 1トレンチ全景第4面(土坑・流路・段差等)



B: 3トレンチ全景第4面(土坑・ピット・溝等)



C: 3トレンチ全景第5面(土坑・ピット・溝等)

国立循環器病研究センター建替整備事業に伴う
明和池遺跡の調査 現地公開資料

編集・発行 公益財団法人大阪府文化財センター
〒590 - 0105 大阪府堺市南区竹城台3丁2番4号
発行日 平成27年9月12日

主要遺構全体略図